

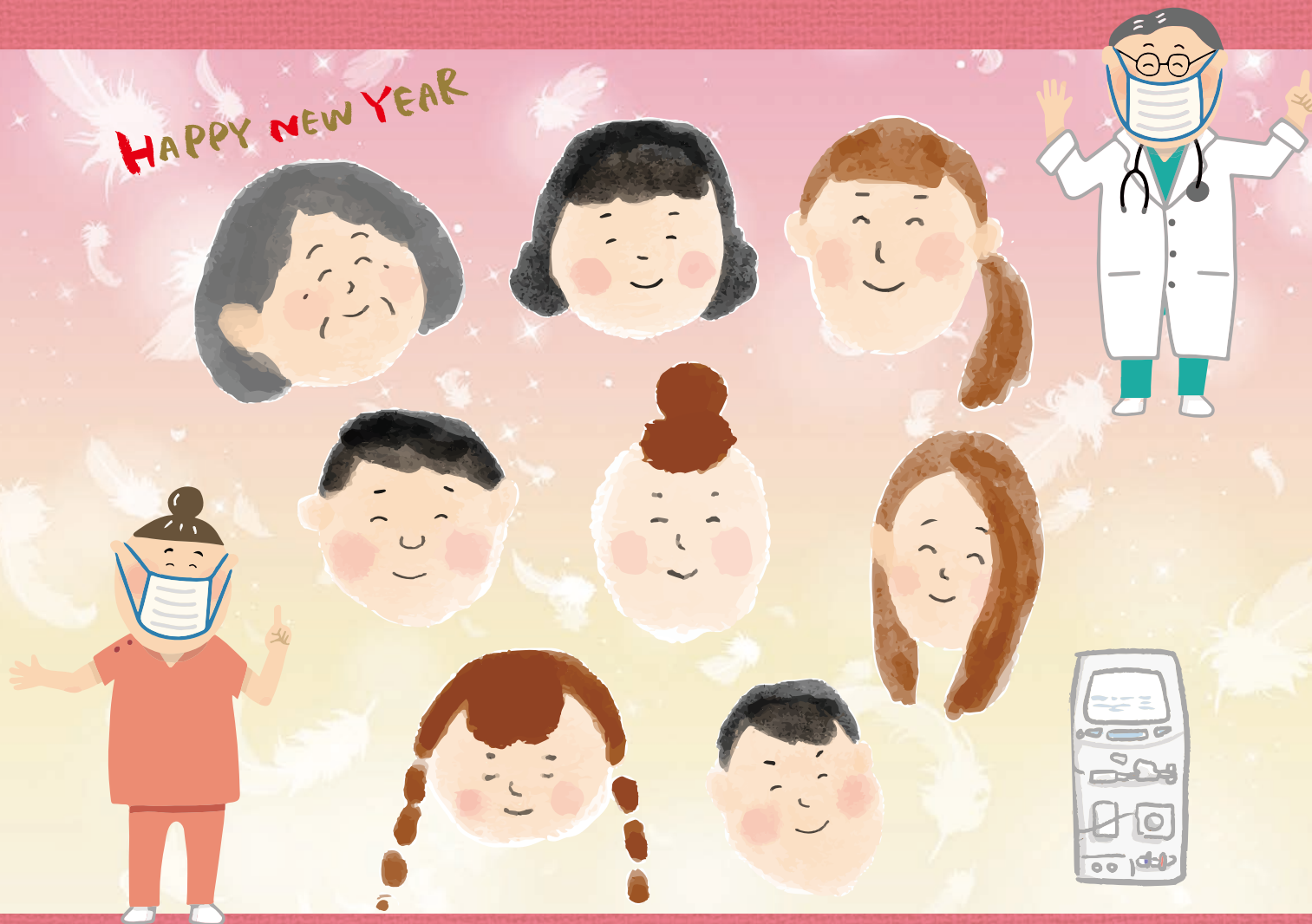


しろうさぎ

S H I R O U S A G I



HAPPY NEW YEAR



特集 Special Issue

『整容のための治療』

📎 病院長 年頭のご挨拶 病院長 井川 幹夫

📎 インタビュー

- 形成外科 林田 健志 講師
- 皮膚科 千貫 祐子 准教授

Contents

- * Professor ~どんな先生?~
- * まるわかり看護部
- * 私のここだけの話
- * 病院紹介
- * イベントなどのお知らせ
- * ニュース&トピックス
- * しまだい病院のキラ☆めき!



島根大学医学部附属病院長

い が わ み き お
井川 幹夫



新年あけましておめでとうございます。

昨年2020年は、新型コロナウイルスが猛威を振るい、病院としても迅速な対応が求められる一年となりました。

当院は島根県から重点医療機関に指定され、重症患者を受け入れるため、県の病床確保計画に沿った専用病床を設置いたしました。

昨年7月には、COVID-19検査センターを設置し、PCR検査による検査体制を整備いたしました。本学が指定する感染注意地域から帰県した教職員、全身麻酔下で手術を行う患者さんや県外から受診・入院される患者さんを対象に検査を行い院内への持ち込み、院内感染の防止に努めてまいりました。従来は、地域医療機関からの受託検査のみ行っていましたが、抗原定量検査を導入し、地域貢献の一環として、ビジネス目的など多様な検査ニーズに対応できるよう自費検査を開始しました。

また、大学病院として果たすべき役割のひとつである高度医療を拡充するため、脳卒中医療の一層の充実を図り、昨年、高度脳卒中センターを設置し、センター専従の医師も着任しました。これまでも脳神経内科、脳神経外科、救命救急センターが連携して対応しておりましたが、脳卒中医療に関わる診療科・部局のより一層の連携をはかり、診療体制を整えております。

今年の干支である「牛」は、古くから酪農や農業など、人々に寄り添い大変な作業を地道に助けてくれる重要な存在です。また、「丑年」は「我慢（耐える）」を表す年になると言われることもあるそうです。新型コロナウイルスによって、まだまだ耐え忍ぶ年になるかもしれませんが、大学病院が行うべき診療を継続し、地域の皆様に寄り添い、安心して生活していただけるよう、職員一同、努めていく所存です。

本年も何卒よろしく願い申し上げます。



形成外科

形成外科とは、どのような診療科で、どのような治療を行っているのか、林田先生にお話を聞きました。

診療科長 ^{はやし} **林田** ^{けんじ} **健志**



○形成外科とは

形成外科は、特定の臓器の治療を行う診療科ではありません。生まれつきの先天異常、外傷・熱傷・腫瘍切除後の組織の欠損などにおける外科的再建を行います。その中でも特に、顔と創傷（傷口）を取り扱うことが多いですが、体表に関することはすべて治療を担当しています。

○^{がんげんかすい}眼瞼下垂の治療

形成外科で治療を行う疾患のひとつに、眼瞼下垂があります。これは、まぶたが下がってくる疾患で、視界が狭まって見えにくくなったり、まぶたを上げようと力を入れ続けることで、頭痛、肩こりなどの症状を引き起こしたりします。高齢になると多くの患者さんが、この病気になります。まぶたを上げる手術をすることで、視界が広がり、さらに肩こりなどの症状も改善されます。

手術前



手術後



○「再建」とは

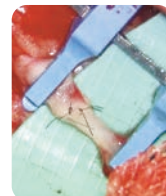
形成外科が行う手術の特徴のひとつとして、「プラス」の手術であるという点が挙げられます。通常の外科で行われる、がんなどの病変部を切り取る手術をマイナスの手術とすると、マイナスの手術で失われた部分を新たに作り上げるプラスの手術を行っています。このプラスの手術を、再建手術と呼んでいます。

当院で実施する再建手術のひとつが乳房再建術です。この手術は、乳癌を取り除くための乳房切除術によって失われた乳房を再建するものです。

再建手術には、取り除かれた部分に、身体の中の切り取っても問題のない他の部分の組織を移植する方法があります。

乳房再建術の場合、腹部の皮膚と脂肪を移植することが多いです。切り取って単純に縫い付けるだけでは、壊死を起こしてくっつかないので、再建にはなりません。

移植する組織が正常に機能するためには、組織を栄養する（血液を送る）動脈と静脈が必要です。切り取った組織と移植する箇所の動脈と静脈を吻合ふんごうさせることで再建させます。



吻合する手術はマイクロサージャリーと呼ばれ（直訳すると「微小外科」）、1mmから2mmほどの血管を吻合させるとても細かい手術で、顕微鏡を用いています。

乳房再建術のほかに、切断された手指の接合なども行っており、マイクロサージャリーの技術によって血管を吻合することで、失った組織を再建することが可能です。



○患者さんへのメッセージ

見かけに関する悩みや困っていることがあれば、形成外科にご相談ください。例えばがんや顔の骨折など、病気やケガの後に体の変形が起きた場合、保険適用内での治療を行うことができます。また、単純に一重まぶたを二重にしたいといった美容に関する手術も保険適用外で行っているため、どんな内容であっても形成外科外来の受診をしていただければ力になれると思います。

レーザー外来（皮膚科）

皮膚科の千貫先生にレーザー外来・レーザー治療について教えていただきました。

◎当院レーザー外来で使用している主なレーザーと治療の対象（保険診療）

レーザーの種類	特徴	治療の対象
 ダイレーザー	赤い色素（ヘモグロビン）に反応 →血管腫の治療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 莓状血管腫 ・ 単純性血管腫 など
 Qスイッチビーレーザー	黒い色素（メラニン）に反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太田母斑 ・ 異所性蒙古斑 ・ 扁平母斑 など



皮膚科 准教授
ちぬき ゆうこ
千貫 祐子

莓状血管腫の治療

莓状血管腫とは…皮膚の盛り上がりのある赤あざ以前は、「ウェイト アンド シー」と言われ、小学生頃には自然と消えるとされていましたが、赤あざが消えた後も、盛り上がった皮膚は元に戻らず跡が残ってしまうことがありました。

レーザー治療導入後は、皮膚が盛り上がらないうちに、早めに治療が開始されるようになり、ほとんど跡が残らなくなっています。

【治療前】



生後7ヶ月

【治療後】



生後1歳7ヶ月
11回照射

Q. 治療にはどのくらいの時間がかかりますか？

A. 保険適用の疾患の多くは、1～3ヶ月程度の間隔を空けて、平均3～5回施術します。治療する範囲が大きければ入院をして全身麻酔で行うこともあります。基本的には外来での施術を行います。1回の施術において数発から数十発の照射をしますが、かかる時間は数分から数十分で、範囲が小さければ、数十秒で終わることもあります。

また、美容目的でのしみやあざ、脱毛を対象とする治療は、自費診療となり、患者さんと相談をしながら、ニーズに合わせた治療となります。

Q. 小児のレーザー治療について、治療に適したタイミングなどありますか？

A. レーザー治療は生後数か月から開始することができます。色素斑や血管腫の治療であれば、皮膚が薄く新陳代謝の盛んな、早いうちに開始するとレーザーが効きやすいとされています。

また、照射するときには、ある程度の痛みを伴うことがあります。痛みを緩和させるために事前に麻酔薬を塗ってから照射しますが、トラウマになってしまわないように、物心がつく前の3歳頃までに治療を終わらせてあげたいと考えています。

Q. レーザー治療による後遺症はありますか？

A. 一時的に、炎症後色素沈着といって黒ずみになったりすることが稀にありますが、大きな後遺症が残ることはほとんどありません。

ご案内

※料金、治療の詳細につきましては、皮膚科学講座HPをご覧ください。当該診療科にご相談ください。





～どんな先生?～ Professor

島根大学病院に所属する教授の人柄、専門分野などを紹介するコーナーです。



島根県で高度で専門的な 耳鼻咽喉科診療を提供します

耳鼻咽喉科 教授 さかもと たつのり
坂本 達則

2020年5月から耳鼻咽喉科の教授に就任しました。

耳鼻咽喉科は、耳、鼻、のどのような生活に直結する機能を持った臓器を扱っています。私はその中でも、耳や鼻の病気を中心に臨床や研究を行ってきました。耳・鼻の病気は、急性中耳炎のように薬の治療でほとんど治る病気もありますが、慢性中耳炎や慢性副鼻腔炎、鼻中隔彎曲症など、難聴や鼻づまり、鼻漏などの症状が持続し、生活の質が低下してしまう病気もたくさんあります。これらの疾患を治療し、機能を改善するためには、顕微鏡や内視鏡のような器具や、それを使いこなす高度で専門的な技術と知識が必要です。症状が進行した場合や、腫瘍（できもの）の場合には、重大な機能障害を起こしたり、命に関わったりするものもありますが、生活の質と関係する臓器を単純に取ってしまうわけには行きませんので、専門的な知識や高度な技術が必要です。

このように、耳鼻咽喉科は少しややこしい臓器を扱っていますが、難しいところは私たちが考えて最善の方法を提案します。島根県の多くの患者さんが安心して高度で専門的な治療を受けられるようにがんばって行きたいと考えています。よろしくお願いたします。



島根県の皆様に顎と口腔の 健康をお届けするために

歯科口腔外科／口腔ケアセンター 教授 かの たかひろ
管野 貴浩

2020年4月より、歯科口腔外科学講座の教授を拝命いたしました。外来や病棟で患者さんやご家族の方々にお会いする機会も増えたかと思えます。私は長年、口腔顎顔面外科学を専門として、顔や顎や口腔の外科的治療を中心とした診療と研究、医学歯学教育に携わって参りました。あごやお口のことで困ったことがありましたらお気軽にお声がけください。

顎や口腔には、外傷（けが）や腫瘍（口腔がん等のできもの）や歯に関連する多種多様な病気が生じ、皆さまの“食べたり、話したり、笑顔で接したり”といった日常生活を妨げることがあります。私たちの診療科では、そんな患者さんのお困りの病気に、最新かつ最良で質の高い“自らの家族にしてあげたい”治療提供をモットーに、関連診療科とも連携し、研鑽を続けています。とくに、病気を手術等により治すだけでなくとどまらず、もとの顎や口腔の健康状態に戻すべく、機能と形態を回復させる再建治療を提供することも積極的に行っています。また高齢社会の中では、全身に多くのご病気を有する患者さん方へは、かかりつけ歯科の先生方と地域連携により、特殊専門歯科治療を提供しています。近年、全身のあらゆるご病気の治療において、口腔や歯のケア（口腔ケア）を行うことで、全身の治療合併症を低減できることが明らかとなりました。2019年5月には、中四国地区初での口腔ケアセンターも設置され、当院の多くの患者さんの口腔ケアにも当たっています。今後も診療科スタッフ一同努力をしていきますので、よろしくお願いたします。



まるわかり看護部

★MARUWAKARI・KANGOBU★

島根大学病院看護部は、30以上の部署があります。それぞれの部署はどのような役割を担っているのでしょうか。このコーナーでは、当院看護部についてまるっとお届けします。

A病棟4階 看護師長 ^{いけだ きみこ}池田 公子

A病棟4階は内分泌代謝内科、腎臓内科、腫瘍・血液内科など、主に内科系の疾患を持つ患者さんを対象とした病棟です。糖尿病や腎臓病などの患者さんには、今までの生活をどのように改善すればいいのか一緒に考え、退院後も継続していけるよう、患者さんお一人おひとりに合わせた支援を行っています。また悪性腫瘍の患者さんも多く、がんによる痛みや治療の副作用ができるだけ少なく過ごしていただけるよう、様々な職種と連携をとりながら関わっています。新型コロナウイルスによる面会制限で、ご家族と会えずいつも以上に不安がある中、スタッフが丁寧に話を聴くことやオンライン面会を行ってもらうことで、少しでも安心して入院生活を過ごしてもらえるよう支援しています。日々笑顔で接し、患者さんやご家族の立場に立った看護を行うよう心がけています。



緩和ケアセンター 看護師長 ^{いまおか えみ}今岡 恵美



緩和ケアセンターでは、診断時から切れ目のない緩和ケアの提供のために、多職種が連携し「緩和ケアチーム」としてチーム医療を行っています。また緩和ケアを、必要とされるすべての患者さんに行き届くようにするための院内のしくみ作りや地域で緩和ケアを提供されている施設との情報共有の場を作ることとしています。緩和ケアセンターには、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師がいます。病気を抱えながらも、患者さんが安心して自分らしい生活を送れるよう支援しています。つらさを抱える患者さんやご家族には、ゆっくりと時間をとり、話を聴かせてもらう時間を大切にしています。また患者さんの痛みや不安など苦痛の対応について、病棟スタッフからの相談を受け、必要な看護について一緒に考えています。これからもコミュニケーションと笑顔とチームワークを大切に一人でも多くの患者さん・ご家族またスタッフの力になれるよう努めていきたいと思ひます。



ハワイで見たダブルレインボー

私のここだけの話

「ダブルレインボー」

呼吸器・化学療法内科 ^{はまぐち めぐみ}助教 濱口 愛

ダブルレインボーを見たことがありますか？ダブルレインボーは虹が二重に見える現象で、見ると幸運が訪れると言われていいます。世界ではダブルレインボーは「卒業と祝福」「人生の好転」「幸せの予兆」「天使からのメッセージ」など、幸福のサインとして言い伝えられているそうです。

そんなダブルレインボーを私は2回見たことがあります。一度は妹の結婚式で行ったハワイで、そして一度は出雲で。奇しくも出雲でダブルレインボーを見たのは、島根に新型コロナウイルス感染症の患者さんが発生した日でした。今、新型コロナウイルスにより私たちは多くの不自由を強いられ、感染する恐怖と感染させる不安にさらされる毎日を送っています。出雲で見たダブルレインボーがこの状況を好転させてくれることを願ってやみません。

ちなみにハワイでは虹が良く見られ、「NO RAIN, NO RAINBOW（雨が降らないところに虹は出ない）」という言葉もあるそうです。早くコロナの雨がやみますように…。





病院紹介

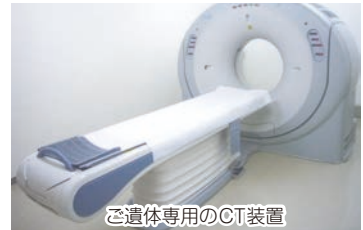
Aiセンター

センター長 法医学講座 教授 **竹下 治男**
たけした はるお
かなやま ひでかず
 放射線部 **金山 秀和**

「Ai」という言葉をご存知ですか？「Ai」とは、Autopsy imaging（オートプシー・イメージング）の略語で、CTやMRI等の画像診断装置で遺体を検査し、死因究明等に役立てる検査手法のことです。日本では毎年100万人以上の方が亡くなり、その内13万人は死因が解明されていないと言われていたのですが、CTとMRIの設置数が世界一であることから、画像診断で死因を検索するAiが広く活用されています。

当院では、2011年6月より当時中国・四国初となるご遺体専用のCT装置を設置したAiセンターが稼働し、画像診断による死因究明や医療安全の確保、犯罪捜査への協力、臨床研究への支援を行ってきました。10月31日現在の総件数は3,525件で、その内478件は、警察依頼のAiです。島根県は東西に長く県面積も広いいため、遺体の発見遅延による死因不明や異常死体等が多いことから司法解剖率が高く、負担軽減や補助診断目的のAiは重要な役割を担っています。

2021年はAiセンター稼働から10年の節目を迎えます。当初はAiを行う体制は全くありませんでしたが、院内の関係部署や警察等の外部機関と試行錯誤した結果、今では欠かすことのできない死因究明方法となりました。死因を解明することは残された遺族のためだけでなく、未来の公衆衛生や社会秩序を保つために大変重要なことです。今後もAiセンターは先進的な社会貢献を推進していきますのでよろしくお願いいたします。



イベントなどのお知らせ

2021.1月～3月の予定

島大病院 ちょっと気になる健康講座

新型コロナウイルス感染症対策の観点から、毎週木曜日 11時00分～院内ロビーで開催しております「ちょっと気になる健康講座」を当面の間休止しております。休止期間中は動画でお楽しみください。

島大病院 **ちょっと気になる**
健康講座

Shimane University Hospital Lectures on Health



お手持ちの携帯電話・スマートフォンからご覧いただけます。

島大病院 ちょっと気になる健康講座 放送予定（出雲ケーブルビジョン）

2021年1月放送予定

皮膚科 准教授 千貫 祐子

放送内容：「じんましんの最新治療」



市民ギャラリー作品紹介

ニュース & トピックス
NEWS & TOPICS

島大病院では、患者さんや、本院へ来院される方に温かみのある環境を提供することを目的として、病院内に市民ギャラリーを設置しています。

11月～12月には、にがお絵画家の細田滋氏による、表情豊かな著名人の「にがお絵展」を行いました。どのにがお絵も特徴をとらえていて、「この人誰だっけ?」とついつい考えてしまい、ほっこり、楽しい気持ちになる展示となりました。



左から 照ノ富士、貴景勝、高安



しまだい病院の キラ☆めき!

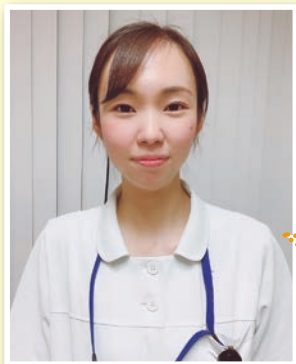
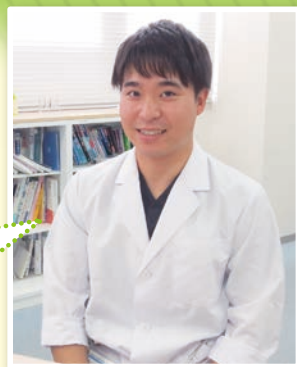
島根大学病院でキラキラ輝きながら、めきめきと実力をつけている若手医療職員を紹介します。

皆様に信頼される医療を提供するため、今日も笑顔で、真剣に仕事に取り組んでいます。



卒後臨床研修センター 初期研修医 ^{はらだ}原田 ^{けいすけ}啓介

初期研修医の原田啓介です。
管野貴浩教授をはじめ多くの先生方に支えられながら、日々研鑽しております。
目まぐるしく過ぎていく日々についていくことで精一杯ですが、先輩方から知識や技術を学び、少しでも患者さんに貢献できるよう励んでおります。
一刻も早く一人前の口腔外科医になれるよう精進していきたいと思えます。



B病棟8階 看護師 ^{なかお}中尾 ^{あき}彩希

看護師として、耳鼻咽喉科・眼科病棟で勤務し始めて2年目になりました。入院時から退院後の生活を見据えた看護を行っています。経験年数が重なるにつれ、看護師としての責任の大きさを感じることもありますが、患者さんやご家族との関わりから、学びや新しい気付きが多く、やりがいを感じています。日々、元気になった患者さんの姿や、感謝の言葉、先輩からの優しい指導に励まされています。今後も患者さんとの関わりを大切に、よりよい看護を提供していきます。

歯科口腔外科／口腔ケアセンター 歯科衛生士 ^{まつだ}松田 ^{ゆうへい}悠平

島根大学医学部附属病院に入職して2年半が経過します。院内に7名しかいない歯科衛生士の1人として、日々歯科口腔外科疾患や全身疾患を抱える入院患者さんの口腔ケアに病院内を走り回っています。当院では2019年5月に口腔ケアセンターを開設したことから年々受診患者さんが増えており、今後もさらなる増加が見込まれます。当科はもとより、他科の皆さまが提供する質の高い医療を、口腔ケアを通して支えるべく、日々精進して参ります。



編集後記

新年あけましておめでとうございます。

今回は、整容のための治療というテーマで特集をしました。病気そのものの治療だけでなく、病気による傷やあざ、加齢による見た目の悩みなどを解決してくれる治療があることを知りました。まずは、かかりつけ医の先生に相談をしてみたら、自分では治せないかとも思っていたけど、自分に合った治療方法が見つかるかもしれません。

本年も皆さまに役立つ情報を発信できたらと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

次号は、4月発行予定です。



【編集者より】

島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ
についてのお問い合わせ先

(このQRコードで携帯から島根大学病院ホームページが見られます！)

医学部総務課 企画調査係 広報担当

☎ 0853-20-2019

✉ mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp

🌐 <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

